

シスター・アーネ

修道院の少女。○7歳。敬虔なシスターで、心優しく、真面目な性格。エルザとは、幼馴染。教師であるロベルタを、尊敬している。警備のマルガリータとは、話した事が無い。何だか可愛い子が居るな、と思っている。修道服の下は、着痩せする、グラマーな体型。一生修道院で過ごす予定なので、恋愛経験は無い。処女。



山賊の襲撃で、死亡。優しいアーネは、戦闘では全く役に立たず、エルザの足を引っ張る形で、捕られる。そのままレイプされ、アーネは発狂。エルザの死体を、笑いながら『可愛い』と、涎を垂らしながら眺め、男達からの凌辱に、甘い声を出して喘いだ。その、男に触れない筈の、淫らな身体は、数多くの男を、死んだ後も、楽しませ続けた。

このおてんばシスターも可愛い……スタイル抜群ですよ……

お尻小せ……!!

ほら……!! オツパイ揺れてるぜ オツパイ!!

親友の死体見ながら逝けるなんて幸せだろ?!

オツパイでけー淫乱シスター……!!

……ん? 笑ってんだ

親友の目の前で殺されてチンポ入れられたまま絞め殺されて喜んでんのか?

殺されるのにまで興奮するなんてとんだ変態だな聖職者のくせに……!!

ああ……オツパイでけー……!!
こんな可愛くて……淫乱の聖職者なんて……聞いた事ね……
ああいく……!! いく……!!
今死んだばかりの大人しい淫乱シスター犯しながらイクぜ!!
ああイクぜ!! ほら出すぜ!! あっ!!
んっ!!



シスター・エルザ

アーネとは幼馴染の、修道院で育った孤児。〇6歳。幼い頃より、おてんば娘で、柄が悪い。口も悪く、下品な言葉を平気で言い、アーネを困らせる。不良娘にありがちな、恋やセックスに興味津々の、淫乱娘。〇3歳の時には、もう男と肉体関係を持っていた。

金に目が無く、よく修道院を抜け出しては、冒険者と、トレジャーハントに行く。実践経験が豊富なためか、シスターにも拘わらず、戦闘能力は高い。

聖職者とは思えない程、好色で淫乱。ちょっと気に入った男なら、すぐに裸を見せて、セックスする。年齢〇6歳にして、女の楽しみを知り尽くして居た。食べる事、寝る事、セックスする事。それが、エルザの生き甲斐だった。

山賊の襲撃により、惨殺される。一応、何人かの山賊を倒すに至ったが、アーネを人質に取られ、あっさり投降。そのまま、アーネの目の前で、犯されながら絞め殺された。



ほら...
エルザちゃん
逝ったぜ!!

お前も逝けよ
シスターアーネ!!

巨乳シスター
アーネ!!
親友と一緒に逝きな!!



マルガリータ・ロツティ

11歳

身長 143cm

体重 31kg

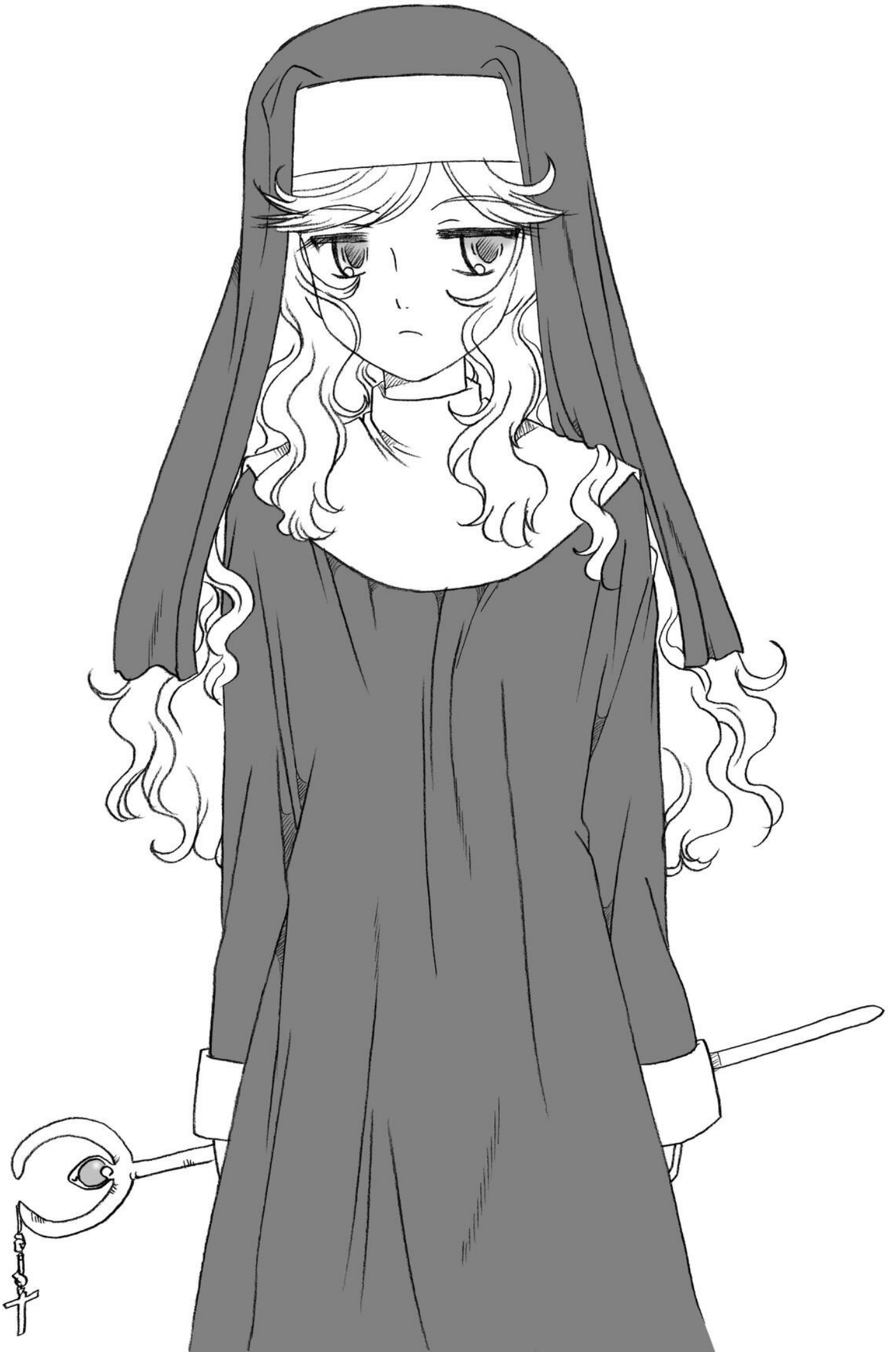
BWH 69・49・71

地方の治安悪化を理由に、教会本部から派遣されて来た、シスター。特殊な訓練を受けたため、戦闘に特化した性質を持つ、ハイプリースト。聖職者であるにも拘らず、黒魔術をも自在に操る。育った環境のためか、感情をほとんど表に出す事が無く、道徳観念も存在しない、戦闘マシーン。

普段の仕事は、主に警備だが、たまに教鞭を取る事がある。授業は、数学。魔導の達人である彼女は、数学の天才だった。ちなみに、彼女の授業は、誰も理解出来ないの、生徒はあまり聞いていない。しかし、感情が無いので、別に怒ったりする事も無いのだった。エルザは彼女を、『結構好き』と言う。サボれるから。生徒の中には、彼女より年長者の者も多く、彼女を『可愛い』と、頭を撫で撫でしたり、頬をついたりするが、無反応。食べる物を与えると、とりあえず食べるので、餌付けをしているようだ、と評判だった。幼い上に、感情が無いので、恋愛にもまったく興味が無いので、言うまでも無く、処女。

教会に、非道な山賊が襲撃して来た事件の際、彼女はロベルタと、エルザと共に、孤軍奮闘。エルザが4人、ロベルタが13人、の山賊を撃退したのに対し、彼女はたった一人で、47人の山賊を、問答無用で殺害した。さすがに力尽きると、その身体は、切り刻まれ、無数の剣と槍で串刺しにされ、半殺しの状態のまま、徹底的に犯された。処女だった膣も、肛門も犯されまくり、射精され、全身を汚されまくった後、斧で頭を割られ、絶命した。斧を振るった男は、彼女の膣内に、ペニスをぶち込みながら、彼女を殺し、絶命する彼女の顔を見ながら、思い切り射精した。





教会の、裏門。そこには、無数の死体に囲まれた、少女の遺体があった。衣服は何も身に着けておらず、全身を、槍、剣、斧など、ありとあらゆる刃物で、串刺しにされていた。その身体には、白い液体が、たっぷりと注がれ、血を混ぜり合い、異様な光景となっていた。

「ったく……何てガキだ、ようやく大人しくなりやがった」

「まあ、こんだけやれば、さすがに死ぬだろ」

「ハイプリーストは、簡単には死なねーからな。まあそのおかげで、楽しめたけど」

「何せ、50人は殺られたからな……たっぷりとお仕置きしてやったぜ。マンコもアナルも全部、20人掛かりで犯しまくったぜ」

「俺、こんなガキ興味ねーけど、復讐も兼ねてのレイプは、最高に興奮するぜ……！超ボッキした」

「途中から、自分で腰振ってたもんな。まあ子供でも女は女って事が。チンポセックス好きなんだよ、結局」

「生意気に、オッパイありやがる。これからいい女になっていくコだったんだろうな」

「ああ……可愛い……！可愛いぜ、この淫乱幼女シスター……頭カチ割られて絶命してる顔……超ボッキする……！ああ……！いく！いく！オッパイ可愛い！小っちゃな幼女オッパイ！出る！チンポいく！精子出るああ！幼女の全裸惨殺死体に出出し！ああっ！！」

びゅっ！！びゅっ……………！！

男は、戦場では女と見れば、死体でも何でも、戦利品として犯す。山賊だけに、非道な異常者だった。

「自分が、何されて、どうなっているのか……それすら分からなくなってる幼女……すっげー可愛い！ああ出る！出るっ！！」

「子供だけど、可愛いからな、最高にヌケるぜ！ああ！いく！俺もいく！食らえ！ザーメン！」

びゅっ！！びゅっ……………！！

どぶっ……………！どぶっ……………！

「尻がいいんだよ、尻が！小さくてよ。大人の女に無いカワイさがあって、超興奮する」

「幼女をレイプ出来るのも、戦場ならではの楽しみだよな」

男達は、常識など持たない、鬼畜だった。

仲間を殺された腹いせとばかりに、マルガリータの身体を犯し、精液をぶっ掛け、汚していく男達。マルガリータの惨殺死体は、男達の手によって、大量の精液を注がれ、ぐちゃぐちゃのどろどろになっていった。



ロベルタ・アーゼ
39歳
身長 162cm
体重 不明
BWH 93・56・91

本国の教会本部から、地方の教会に、教師として派遣された、聖職者。本職は、アークプリースト。生まれた時から、教会で育ち、教会で教育を受け、そのまま教会に就職した、根っからの聖職者。孤児院も兼ねる教会で、管理と教育を任される。真面目で、堅物な性格。逆らわなければ優しいが、規律を破ると、鬼教師と化す。運動神経は人並みだが、高位魔術を操る、魔導の達人。おてんばエルザも、彼女には逆らえない。彼女の折檻は、『一日ビリピリの刑』と呼ばれ、恐れられている。妙齢の女性だが、独身で、子供も居ない。故に、生徒達を、自分の子供のように、大切にしている。実は、若い頃に結婚しており、未亡人である。恋愛経験は、夫となったその男のみで、愛し合うようになってからは、神に許しを請いながら、淫らな愛欲の日々を送った。真面目な彼女は、愛を知ると、徹底的に淫らな世界に浸った。恋とは、性欲の事なのだと、頭の良い彼女はすぐに理解出来たのだから。夫を亡くしてからは、誰とも関係を持っていない。

無法者の襲撃を受け、生徒を守るために、奮戦するも、黒魔術の達人の襲撃者に、生きたまま焼き殺される。黒焦げになった身体は、異常者の男達に、犯される事となった。熟女の豊満な肉体は、男達の欲望を受け、大量の精液を吐き出させる。ロベルタの死体は、白と黒でぐちゃぐちゃに変わり果てていった。



「子供達には…何人たりとも、触れさせはしません」

冷徹な表情で、男達を見るロベルタ。かつては国境で、隣国の兵士に『白き魔女』と呼ばれ、恐れられた、アークプリーストである。

「何だこいつ、何でこんな田舎の教会に、こんな上級司祭が居んだよ…！」

既に周囲には、何人かの男達の死体が、転がっている。聖職者と言えど、無法者には容赦が無いのが、教会のルールだった。

「すげえ……ババア、やるじゃん」

おてんばシスター、エルザも、いつもはロウるさいだけと嫌っていたロベルタに、感嘆する。今回ばかりは、頼りになると、この鬼教師を信頼していた。

「今ババアと言いましたね。お仕置き決定。電気椅子2日の刑に処します」

「それどころじゃねーだろ！」

不良シスターのエルザは、違法魔術の常習犯。しかし、そのおかげで、非道な山賊の襲撃を、何とかしのいでいた。バイトと称して、冒険者をつるんでいたのが功を奏した。

ガン！とロベルタの周囲で、何かが弾かれる。大槍が、ロベルタの身体を串刺しにしようと、飛んで来たのだが、ロベルタの、強力なマジックシールドに弾かれ、粉々になる。

「…あなたは、お仕置きをするにも値しませんね。…死になさい」

ロベルタの、詠唱無しの魔術で、槍を放った男は、白い光に焼かれ、消炭になった。

「ひい……！いつか強くなって、復讐してやると思ってたのに……、これじゃ逆に殺されちまう…」

ロベルタに、個人的な恨みがあったエルザは、その実力の差に、戦慄していた。これでは、一生かかっても、復讐は果たせそうにない。

「甘く見て貰っては困ります。これでも私は、あなたより年長者なのですから」

既に、ロベルタが3人目の男を消し炭にしてしまっていた。



「おい、あいつやべーぞ……！あの連中呼べ、あの傭兵の奴ら……！」

「ああ、あのキ○ガイ魔導士。あいつなら何とかなるだろ」

「何か、向こうで小っちゃなガキに苦戦してたけど、もう終わったみてーだ。今、犯しまくって、ブチ殺したとこだとよ。これからバラバラにして、飾り付けだ」

男の言葉に、眉を顰めるロベルタ。反対側の門は、マルガリータに任せてある。あの戦闘マシーン、ロベルタなどとは比べ物にならない、殺戮兵器だった。そう簡単に、後れを取るとは思えない。ロベルタは、嫌な予感がした。



あ...あ
あっ...

あ
っ...



状況は、徐々に悪化していった。裏門を守っていた、マルガリータが、死亡したと聞いた。あの幼い戦士が、敗北したとなれば、自分如きが、その相手に敵う筈が無い。ロベルタは、死を覚悟した。実際、自分の魔力も尽きかけており、一緒に居た筈のエルザも、既に男達に組み敷かれ、凌辱されているのが見える。夫に操を立てているロベルタは、自決したいと思ったが、宗教上の理由で、自決は許されないのだ。男達からの、凌辱。拷問の果ての、惨殺。その恐怖に、怯えるロベルタ。その隙をついて、高位魔術が、ロベルタのマジックシールドを破壊し、その身体に襲い掛かった。

「いっ……ぎゃ……！きやあああ！あ、熱い！
あっ、あっ、あああああああああああああ
あああぎゃあああああ——ッ！！！！」

断末魔の、絶叫。凄まじい温度の炎が、ロベルタの法衣を消し飛ばし、肌を露出させる。魔術的な防御を施された衣服が失われ、全裸になるロベルタ。その熟女の、魅惑の肉体が、顕わになる。

「ひいやああああああああああ！！
いぎゃああああ！！いやあ！！ぎゃああ！！
あぎゃああああ！！あがああああああああ
ああああああアアアア——！！！！」

衣服を失い、豊満な乳房を露出するロベルタ。しかし、恥じらっている余裕など無い。その全身を焼く炎は、凄まじい温度。普通ならば、即死する攻撃だった。

「アアアアア！！アギヤアアアアアアア
イギヤアアアア！！ゴロジデエエエ！！
バヤグゴロジデエエエエエ——ッ！！
アヅイアヅイアヅイアヅイイイイイイイイ
イイイイイイイイ——！！！！！！
ギヤアアアアアアアアアアア！！！！！！」

魔力の高いロベルタは、魔術の攻撃では、簡単には死なない。故に、死に至る、地獄の苦痛を、長時間味わう事となった。

「おー、いい身体してるなー。エロ熟女」

「40歳くれーかな…いい時期だぜ。さっき
幼女犯したばっかだから、エロ熟女最高に
ポッキするぜ……！」

死の苦痛に、のたうち回る様子を見ながら、男達は興奮し、勃起していた。オナニーをしている者すら居る。全裸で、悩ましい死のダンスを踊るロベルタは、殺人鬼の男達には、最高に淫らに、美しく見えた。

やがて、全身を黒焦げにさせたロベルタは、倒れたまま、動かなくなった。魔導士が、炎を止めると、そこには、程良く、こんがり焼き上がった、妙齡の美人司祭の全裸死体があった。全身を、黒焦げにし、湯気と煙を上げ、時折身体をびくん、びくん、と痙攣させる。惨殺された女の死体は、男達には、格好の興奮材料だった。男達は、早速ロベルタの死体を犯そうと、その身体に群がり始めた。隣の部屋では、少女達の悲鳴と、喘ぎ声が交じり合い、響いていた。



「あー可愛い……っ！ すっげーエロいぜこの女……！
ババアとは思えねー……！」

「どう見ても40くれーだよな。その辺の若い女より
ずっと可愛いぜ……！ 見ろよこのオツパイ……！」

「ぷるんぷるんだよな。20代でも
垂れまくった醜いオツパイの女も
居るってのに……！ どの誰とは
言わねーけど。ああ……オツパイの
ホクロが超エロいぜ……！」

「処女じゃねーな、こいつ。聖職者の
ぐせに、チンポマンコに入れた事
あんのかよ。この淫乱司祭が……！」

「こんだけ美人なんだから当然
だろ。どっかのバカ女とは違うん
だから」

「美人は淫乱、ブスは
セックス嫌いのレズ気取り
ってのは常識だからな」

「ほら、チンポしごきな……！
んん……気持ちいい……！
ババアとは思えねーぜ……！
柔らかい手……！ さっきまで
ロリガキ犯してたから余計に
……！ ああいく！ 出る！ ほら！
顔に掛けるぜ！ んっ！！」

びゅるっ……！！ びゅるっ……！！

ぷるんっ……！
ぷるっ、ぷるっ……！

「あーオツパイエロい……！
ほらほら、オツパイ見られてるぜ、
自分を殺した男に……！ どんな
気持ちだ？」

「聖職者だもん。顔射された事なんて
無いんだろ？ こんなエロい身体してるぐせに
セックスしないで過ごすなんて、損だぜ？」

「まあ、醜くて、性格悪くて、男を
怒らせるバカとは違うからな。
キ〇ガイはレイプする価値すら
ねーし」

「こいつ……死んでても可愛い……！ エロ過ぎ……！ ああ……いく！ いくぜ！
巨乳の熟女司祭の死体を犯しながらイクぜ！ オツパイ可愛い！ ああ！ いくぜ！
ほら！ オツパイ司祭出すぜ！ 子宮に精子ぶっ掛けるぜ！ 妊娠しな！ ああっ！！」

「死んでるから
もう妊娠しねーよ」

びゅるっ！！ びゅっ！ びゅっ………びゅくん……！！

Reminder that translations are not only welcome,
they are in demand!

提醒一下，不仅欢迎翻译，
他们很抢手！

翻訳を歓迎するだけでなく、
彼らは需要があります！

번역도 환영합니다
그들은 수요가 있습니다!



LOST MEDIA AWARENESS

"撃沈死姦 /
SINKING DEATH"

BY

艦隊これくしょん /
RED CROW

Sample

Sample